

総合型地域スポーツクラブと競技団体からみた部活動地域移行の課題について

R4.6.20

1. 総合型地域スポーツクラブ

(1) 総合型地域スポーツクラブの考え

① 多種目・多世代・多志向

多世代…子どもから高齢者まで

多種目…様々なスポーツを愛好する人々が

多志向…初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる

② 総合型地域スポーツクラブ＝生涯スポーツ

▼ 競技スポーツではない ⇒ ア、競技団体へ説明する必要あり
イ、体協とも連携してほしい▼ 人材確保について ⇒ ア、人材不足により、種目が限定される
イ、指導者を雇用するような仕組みづくり
ウ、外部指導者の活用、指導したい教員▼ 地域クラブの考え方 ⇒ ア、地域の受け皿も少なくなっている
イ、地域性より、やりたいことがあれば地域を越えて集まる
ウ、酒田の子どもが、スポーツができない環境にはしたくない○ 部活動の連携 ⇒ ア、種目を増やしてもいいクラブもある
イ、地域を超えた受け入れ

(2) 部活動との連携

① 『子ども達のため』になる部活動

○ 生徒が自ら考え、自己決定する場をつくる

○ 通いやすい場所にやりたいクラブがある

○ 学区に縛られないことがベスト

② めざすもので分類していく

A 競技力を高めたい子

B 楽しみたい子

} 選択の幅を広げる（1人複数種目やれる）

【例えばこのような形は…】



競技スポーツ

〇〇クラブ
〇〇クラブ
〇〇クラブ

← 選択



総合型地域スポーツクラブ



〇〇クラブ
〇〇クラブ
〇〇クラブ

← 選択

(3) その他

- ①部活動の教育的価値
- ②学校と切り離しては活動ができない
- ③部活動指導員の在り方（不公平感）
- ④外部指導者制度を確立する必要性
- ⑤スポーツ自体に取り組む子どもの減少
- ⑥行政として予算建てをしていくのかどうか

2. 各競技団体

(1) 課題

- ①部活の受け皿が最終的に協会になるのは負担
- ②教員の負担軽減にはなるが、他の指導者の負担になる
- ③将来的に指導者の職業になりうるのか
- ④組織改革を勧められるのか → 中体連や高体連
- ⑤クラブ経営が厳しい現状にある → 選手コースを行わないクラブあり
- ⑥ガイドラインの見直し
- ⑦交通手段（移動手段）の確保

(2) 期待されること

- ①地域でも子ども達に運動の場を保障したい
- ②競技団体によっては、合同練習などできるのはありがたい
- ③スポーツ少年団との関り

3. 総合型地域スポーツクラブと競技団体の共通する課題

- ①指導者の人材確保
- ②指導者を雇用するシステムづくり
- ③クラブ・競技人口の減少